

# 離床センサー Vol.118 2019.6

## 現場レポート!



離床センサーをお使いの現場からレポートいたします!



### 東埼玉総合病院様のセンサー使用と使用解除について

#### Q. 離床センサーの選択基準やルールを教えてください。

「身体拘束時間の短縮」「転倒・転落した場合の発見時間の短縮」を図ることを目的として、離床センサー運用マニュアルを作成しています。離床センサー使用は基本的に「スタッフコールが押せるかの有無」と「身体抑制スコア」で判断します。また使用解除基準も設けてスタッフで共有しています。

	マットの特徴	身体的適応目安	精神的適応目安
コールマット	・床置き型 ・足を置いた時点でコールと連動	・自立歩行可能 ・徘徊	・認知症、見当識障害 ・不穏、せん妄状態がある ・スタッフコールが認識できない
サイドコール	・ベッドマットレス左右端に置くタイプ ・ベッドサイドに患者が移動し端座位など荷重がかかった時点でコールと連動	・自立歩行は可能だが転倒リスクが高い ・ベッド上で移動が多い ・コールマットを避ける	同上
赤外線センサー	・断線故障なく、より衛生的にセンサーを使用できる ・患者の状況に合わせて報知するタイミングを変えられる	・コールマットを避ける	同上

項目	患者の状況
①スタッフコールが押せるか	スタッフコールを押せるようになった
②使用中の行動頻度	患者の行動により作動していない
③危険行動の有無	危険行動が見られない
④身体抑制スコア	2点以下

#### Q. 離床センサーの使用を判断する過程は？

離床センサーが必要かを判断するためには、まず「スタッフコールが押せるか」を確認し、その後は「離床センサー使用・解除フロー」に従って進めていきます。

#### 「スタッフコールが押せる場合」

- ①身体抑制スコアが2点以下でも一時的な失見当識があり不安な場合は、スタッフコールの使用法、押すタイミングを指導します。
- ②指導によりスタッフコールの理解があり、コールを押すことができ、危険性が無い場合は、離床センサーの使用はせず、様子を見ます。
- ③指導を行っても理解度がやや乏しく、スタッフコールが押せず危険性がある場合はフローに従って判断します。

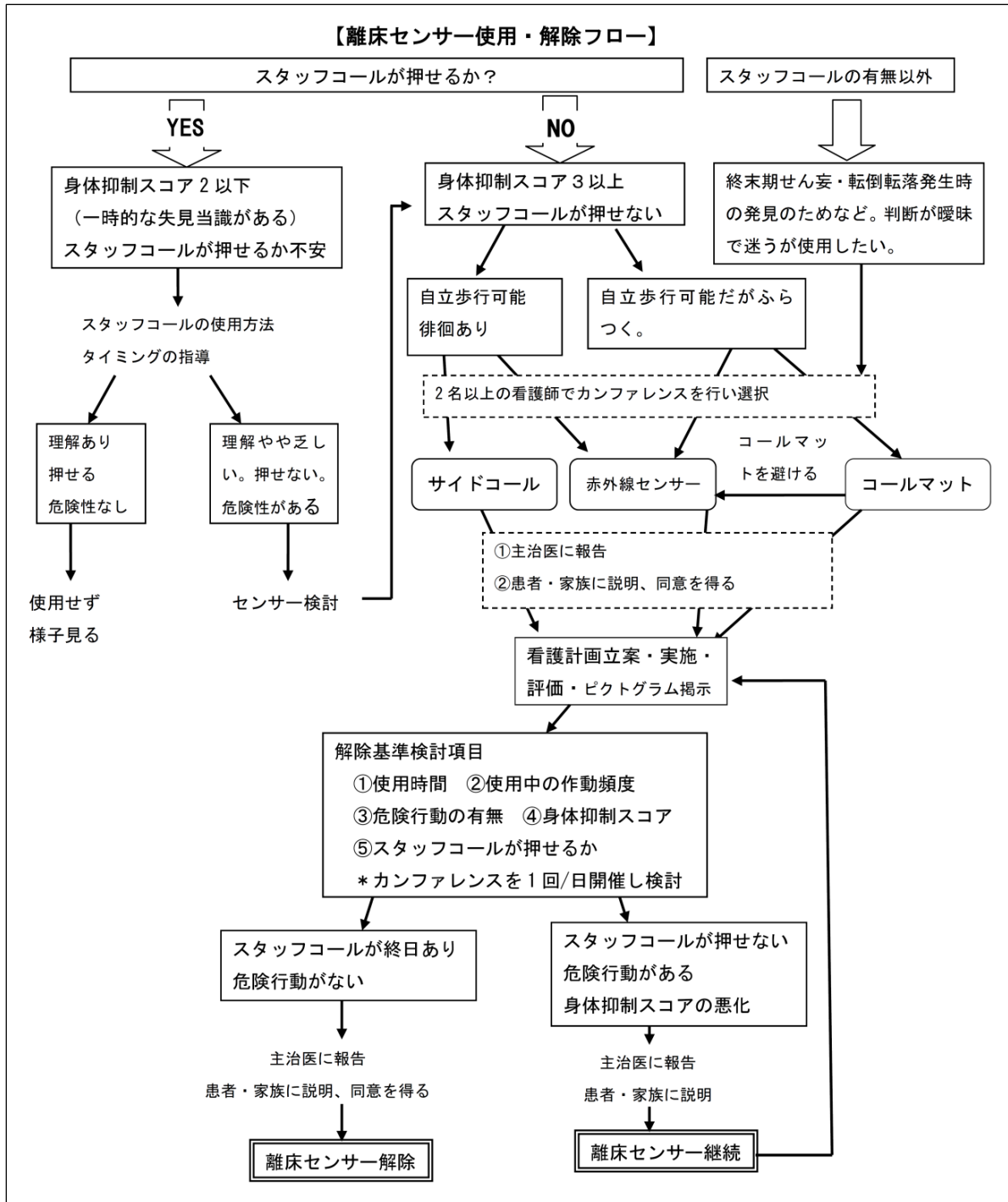
【⇒次頁参照】

## 「スタッフコールが押せない場合」

身体抑制スコアが3点以上で表1の身体的適応目安・精神的適応目安を参照し2名以上の看護師で患者を評価し、センサーマットの選定のカンファレンスを行い判断します。

## 「判断が難しい場合」

終末期せん妄、見当識障害などでスタッフコールの有無が曖昧で判断が難しい場合、離床センサーを使用したい場合は、2名以上の看護師でカンファレンスを行い判断します。



東埼玉総合病院様では、他にもセンサーの「設置方法」・「使用中の確認事項」・「清掃方法」・「保管方法」・「管理方法」を文書にして、スタッフがいつでも確認できるようにされています。

